

## 【共助力の促進を目指した多世代交流イベントの取組み】 ～災害時に期待される高齢者の役割について～

【いきいきサロン事業】 むチューいきいきサロン：合原聡美  
杏林大学講師：古川美和  
秋草学園福祉教育専門学校専任教員：荒井芳紀

### 【目的】

災害時に生命と健康を守るためには、平時から自助力・互助力・共助力を高めることが重要であるが、近年の地域社会を取り巻く環境と家族形態の変化は、地域連帯の希薄化と家族介護力の低下をもたらしている。

そのため、今回、「むチューいきいきサロン」では、共助づくりの場を提供することを目的として、多世代向けに応急手当の体験会を実施した。この応急手当の体験会では、災害時に備えて、健康な成人とともに、子どもや高齢者・障がい者といった災害弱者も含めた地域内の共助を促進することを目指している。

### 【具体的な取組み方法】

- 1) 日時: 2023年3月25日 10:30分～11:30分
- 2) 場所: 武蔵野中央地区商店連合会事務所
- 3) 活動参加者: 2歳～90歳代までの地域住民 23名  
(高齢者 8名, 成人 6名, 幼児 6名)
- 4) 活動ボランティア: 20歳代～50歳代の 12名
- 5) 内容: 応急手当と物資の搬送方法の演習

### 【倫理的配慮】

活動開始時に参加者に口頭で本活動の趣旨と個人情報保護について説明した。活動への参加をもって同意とし、いつでも同意を撤回できることを説明した。なお本活動は武蔵野中央地区商店連合会事務所の責任者に同意を得ている。

### 【結果】

幼児を除く参加者にむけて、一次救命処置と傷の手当・物資の搬送方法の演習を行った。その中で、参加高齢者には一次救命処置にはかかせない、「応援者を要請する」活動を演習してもらった。

傷の手当・物資の運搬活動の演習では、風呂敷を代用した包帯法やリュックサックなどの搬送袋づくりをボランティア講師が実演した。成人の参加者は風呂敷に使い慣れておらず、風呂敷の活用法に関心を示していた。その一方、参加高齢者は風呂敷を使いこなしていた経験を語っていた。

### 【考察】

一次救命処置の演習を見学していた高齢者から「私もやってみたい」という発言がみられた。彼らには人の役に立ちたいという意欲や応援者を要請する行動力、物資が不足していた時代に生きてきた経験といった強みがある。これらの強みを活かすことができれば、高齢者も地域の一員として応急手当の要となりうるだろう。

今回の体験会に参加した成人は、従来から地域での多世代交流に興味をもっていたようだが、これまでにはこのような機会がなかったようで、今回のように身近な場所でイベントを開催することは、実際に地域の高齢者と対話をする貴重な機会にもなったと思われる。今回は応急手当の体験会というテーマだったが、今後も地域のニーズに合わせたテーマで、地域の身近な場所で多世代が交流できる場を継続的につくっていきたい。